

北海道大学シラバス					
■ ■ 科目名					
情報メディアと観光					
■ ■ 講義題目					
■ ■ 責任教員 (所属)					
清水 賢一郎 (大学院メディア・コミュニケーション研究院)					
■ ■ 担当教員 (所属)					
山田 義裕 (大学院メディア・コミュニケーション研究院) 伊藤 直哉 (大学院メディア・コミュニケーション研究院) 山本 雅人 (大学院情報科学研究院) 川村 秀憲 (大学院情報科学研究院) 北村 倫夫 (大学院メディア・コミュニケーション研究院) 清水 賢一郎 (大学院メディア・コミュニケーション研究院) 内田 純一 (小樽商科大学)					
■ ■ 科目種別				■ ■ 他学部履修等の可否	可
■ ■ 開講年度	2019	■ ■ 期間	1 学期 (夏ターム)	■ ■ 時間割番号	083210
■ ■ 授業形態		■ ■ 単位数	1	■ ■ 対象年次	1~
■ ■ 対象学科・クラス	国際広報メディア・観光学専攻			■ ■ 補足事項	
■ ■ ナンバリングコード	IMC_MCTS 5110				
■ ■ 大分類コード	■ ■ 大分類名称				
IMC_MCTS	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)				
■ ■ レベルコード	■ ■ レベル				
5	大学院 (修士・専門職) 専門科目 (基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目				
■ ■ 中分類コード	■ ■ 中分類名称				
1	共通科目				
■ ■ 小分類コード	■ ■ 小分類名称				
1	専門共通科目				
■ ■ 言語					
日本語で行う授業					

## ■ ■ キーワード

情報メディア、観光、観光情報学、Web2.0、デジタルマーケティング、ビッグデータ、人工知能 (AI)、ソーシャルメディア、サービスイノベーション、地図

## ■ ■ 授業の目標

本科目では、デジタル化やサイバー化が進展する現代の情報メディア環境に即応した、観光（ツーリズム）分野への新たなメディア活用のあり方について、現代社会における高度情報化とメディアをめぐる諸現象に関する理論的背景や技術的問題、あるいは具体的な実践事例とその課題等の多面的な検討を通じて、基礎的な知見や論点を修得することを目標とする。そして、そこから、今後の関連領域への探査の足場を築くことも目標である。

#### ■ 到達目標

講義を通して、受講者が以下の3項目を身に付けることを到達目標とする。

- (1) 多様な観光現象を、情報メディアの文脈から理解し、説明できること。
- (2) メディアと観光の関連性について、具体例を通して、わかりやすく説明できること。
- (3) 授業で紹介した様々な概念を用いて、情報メディアと観光の接合領域における諸現象について、その課題と将来展望を論じることができること。

#### ■ 授業計画

授業はオムニバスによる講義形式（ゲスト講師を招いての対話型も含む）及び質疑応答、ディスカッションにより双方向的に進める。

（注）講義の順序は講師の都合により変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

##### 第1回 Web2.0以降の情報メディアと観光行動（山田）

情報メディアの観光行動への影響について、Web2.0以降の情報環境の変化を視野に入れて検討する。

##### 第2回 デスティネーションマネジメントと観光情報（伊藤）

情報空間におけるe-口コミやデスティネーション情報の影響を観光情報学的に検討する。

##### 第3回 観光デジタルマーケティング（北村）

観光分野における電子メディアを駆使したデジタルマーケティングの事例と基礎論を学ぶ。

##### 第4回 観光とビッグデータ（山本）

観光分野におけるビッグデータの応用例、その可能性について検討する。

##### 第5回 観光とAI（川村）

観光分野における人工知能の技術、応用例と可能性について検討する。

##### 第6回、第7回 観光情報サービスイノベーション（内田）

官民で整備するデータ活用プラットフォームが可能にする新たなICT接客サービス、ソーシャルメディアが加速するコラボ的ライフスタイルとシェア型サービスのイノベーションを展望する。

##### 第8回 地図の情報社会学（清水）

観光に必携の情報メディアとして、地図・マップについてメディア社会学的に検討する。

#### ■ 準備学習(予習・復習)等の内容と分量

積極的に授業に取り組む姿勢が求められる。各授業における事前準備や課題等の説明は各回担当者が行うので指示に従うこと。

#### ■ 成績評価の基準と方法

各担当者ごとに提出するリアクションペーパー（講義内容へのコメント等）80%、授業に取り組む姿勢（発言の積極性、提出課題等）20%を基準として、最終的に全担当者の合議を経て成績評価を決定する。

リアクションペーパーについては、各担当教員がそれぞれの回にテーマ及び提出方法を指示する。

#### ■ テキスト・教科書

教科書は使用せず、資料を必要に応じ配布する。 No textbook required. Handouts will be distributed.

#### ■ 講義指定図書

参考文献その他の資料は、各講師が担当する回に紹介・配布する。 References and materials necessary will be introduced and/or delivered by each instructor.

■ ■ 参照ホームページ

■ ■ 研究室のホームページ

■ ■ 備考

■ ■ 更新日時

2019/01/23 22:10:32